

シンポジウム登壇者

暦本純一

情報科学者。東京大学情報学環教授、ソニーコンピュータサイエンス研究所フェロー・副所長、ソニー CSL 京都ディレクター。世界初のモバイル AR(拡張現実) システム NaviCam を 1990 年代に試作、マルチタッチの基礎研究を世界に先駆けて行うなど常に時代を先導する研究活動を展開している。現在は、Human Augmentaion(人間拡張) をテーマに、人間と AI の能力がネットワークを越えて相互接続・進化していく未来社会ビジョン Internet of Abilities (IoA) の具現化を行っている。iF Interaction Design Award(2000)、日本文化デザイン賞 (2003)、日経 BP 技術賞 (2008)、日本ソフトウェア科学会基礎科学賞 (2014)、ACM UIST Lasting Impact Award(2014, 2017) などを受賞。2007 年に ACM SIGCHI Academy に選出される。

松本隆史

清水建設株式会社技術研究所未来創造技術センターデジタル X グループ主任研究員。同社にて、建物・街区のデジタル化に関する UI/UX デザインおよび建築アーカイブの研究に従事。シンガポール国立大学スクールオブコンピューティングシニアリサーチフェロー、九州大学高等研究院助教などを経て、2018 年より同社研究員。九州大学大学文書館協力研究員。博士 (政策・メディア)。

辻本将晴

2005 年慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程修了 (博士 (政策・メディア))。東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学系・技術経営専門職学位課程教授 (系・課程主任)。2011 年東工大挑戦的研究賞受賞。2014 年から 2015 年ハンブルク工科大学客員教授、2017 年、2019 年から 2020 年スイス連邦工科大学 (ETH Zurich, Chair of Entrepreneurship) アカデミックゲスト。日本 MOT 学会理事、編集委員長。イノベーションデザイン・プラットフォーム (IdP) 代表。

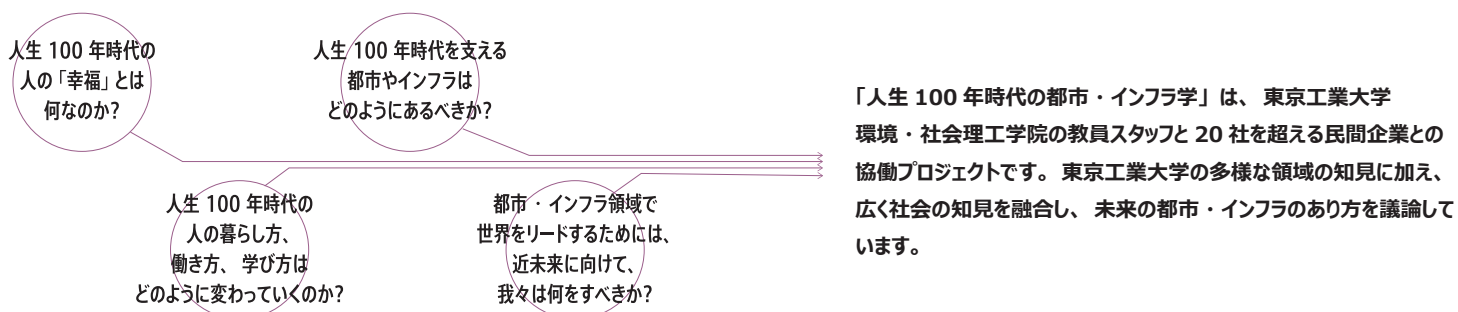
室町泰徳

東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授。交通計画・都市計画・気候変動。東京大学にて博士 (工学)。東京大学助手、同大学講師、フィリピン大学交通研究センター客員教授 / JICA 専門家などを経て現職。IPCC 第 4 次評価報告書第 3 作業部会『気候変動の緩和策』執筆者。編著書に『運輸部門の気候変動対策』(成山堂 2021) など。

野原佳代子

東京工業大学 環境・社会理工学院 教授。翻訳学・コミュニケーション論・言語学。オックスフォード大学にて博士号 (翻訳学)、修士号 (歴史学)。同大学講師、学習院大学助手、ルーヴェンカトリック大学研究員等。東工大 WRHI サテライトラボ STADHI を主宰し科学技術 x アート学際研究を牽引。著書に『ディスカッションから学ぶ翻訳学』(三省堂 2014) など。

東工大産学協働プログラム「人生 100 年時代の都市・インフラ学」とは



会員企業

HEBEL HAUS
ALL for LONG LIFE



株式会社アール・アイエー



okamura



KUME
SEKKEI



株式会社 佐藤総合計画

